
パンデミック

京谷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パンデミック

【Zコード】

Z0478Z

【作者名】

京谷

【あらすじ】

ある日、突如として世界に変化が訪れる。

そんなことは知る由もない男「笹塚京谷」はいつも通り昼寝をしようとしていた。

そんなときに外が騒がしくなってきた。

あまりの「うわさ」にカーテンを開けた京谷が見たものは・・・

(前書き)

まず、一つ注意がござります。
自分で書いていても思うんですが、セリフが多い!とにかく多い!
なので小説って感じがしないかもせんが、どうか温かい目で
見守つていただけると幸いです^_^

「あー昼寝できねえじゃねえか。」

自室で愚痴つてるのは、篠塚京谷。

「日曜日だつてのに外がうるさくて寝れやしねえよ」

「祭りでもやつてんのかあ？」

カーテンを開けてみた。

「あああ？」

目に飛び込んできたのは、今までやつたことのあるゲームのよつな光景だつた。

「人が人を襲つてんのか！？」

「…?」

襲われている人を中心にして真っ赤な海ができ始めた。

「血だよな…・・あれ」

（「のめめじやまざい! 助けなきややべえよ。」）

部屋にあつたバットを手にし部屋から飛び出した。

家から出ると状況の悪さが一瞬でわかった。

飛び交う声は悲鳴だけ、道路に投げ捨てられている車の中には燃えてこるものまであった。

「なんだよ? 朝はこりなんじゃなかつたぞ!」

（とにかく助けなくては）

京谷は襲われている人に向つて走り出した。

（以外に距離があつたんだなあ・・・）

京谷は人命救助をしようと道を爆走中、バットを片手に持つて。

普段なら今の笹塚の恰好を見れば悲鳴の一つでも上がつたかもしないが、

悲鳴はもう充分なくらいに至るところから聞こえていた。

「よつやく着いた。」

一人の人間に群がる人間。いじめの瞬間を見ているみたいで少し頭に血が昇る。

「おい！なにやつてんだ。いい大人が多勢に無勢とはよ！」

「ウウウウウウウウウ」

「あ？聞こえねえよ。とにかくそこから離れろ。」

「ウウウウブチツウウウ」

「おこー向かってただ、お前ひー」

京谷は自分が無視されていることで若干切れ始めていた。

「おこ・・・いい加減離れねえといこつでブン殴るぞー。」

「ウウウウウウウ」

「警告はしたからな。くわ野郎ー。」

() こいつだー()

ドンッー

フルスイングが奴の背中にヒットした。
しかし、京谷の手は止まらなかつた。

(後書き)

「」今まで読んでくださった方、本当に疲れ様です・・・たぶん文がおかしかったり、言葉の使い方が間違つてたりしたかもしれません。

申し訳ありません。

そこで皆さまにお願いがござります、改良点などがあつたらぜひひ書
いつていただきたいのです。

わざわざ書くのは面倒くさいかもしれません、何卒諒りよしくお願
願いいたします。

最後にもう一度読んでくださった方々に感謝をして終りたいと思
います。

本当にありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0478z/>

パンデミック

2011年12月1日21時46分発行